

医療施設長 様

鹿児島市医師会臨床検査センター
センター長 上ノ町 仁

MTX、副腎皮質ステロイド、生物学的製剤などの適正使用 のお知らせ

日頃より当臨床検査センターをご利用いただき、誠にありがとうございます。

ご承知のとおり本年3月度に発刊された「関節リウマチにおけるメソトレキサート（MTX）使用と診療の手引き2023年度版」を受け、

- ① 免疫抑制療法下で注意すべき感染症とその予防対策
- ② MTXや副腎皮質ステロイド投与前の感染症スクリーニング
- ③ 結核対策とLTBI治療の重要性

についてメーカー主催によるWEBセミナー（添付リーフレットをご参照ください）をお知らせいたしますので是非、ご活用ください。

「潜在性結核感染症、検査項目：T-SPOT」・・・現在、採血後54時間の保存安定性となっております！

検査項目	検体量 (mL)	容器	キャップ カラー	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値 (単位)
結核菌特異的IFN- γ 5E301-0000-019-031	血液(ヘパリン 加) 5.0	PH5		 室温 (32時間)	3~5	594 ※6	ELISPOT法 	陰性

- ・他項目との重複依頼は不可、検体は出来るだけ当日午前中にご提出ください。
- ・指定容器に採血後、転倒混和（室温保存）をお願いいたします。

「参考」

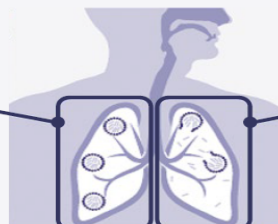
結核菌は体内に存在するが、免疫で封じ込まれて活動せず潜伏している状態（感染はしているが発病はしていない状態）を「潜在性結核感染症 (latent tuberculosis infection : LTBI)」と呼びます。結核菌に感染しても、生涯発病する確率は約10%と報告されていますが、免疫が低下する病態・治療により、一般的に結核発病リスクが高くなります¹⁾。結核菌の感染者が活動性結核を発症するリスクは、個々の免疫状態により異なりますが、リスクが高まる要因の一つに、様々な診療科で使用されている免疫を抑える薬剤があげられます。潜在性結核感染症治療指針¹⁾によると、相対危険度はリスク要因のない健康な人と比べて、生物学的製剤を使用した場合は約4倍、副腎皮質ステロイド剤（経口）の使用で約2.8~7.7倍、その他の免疫抑制剤の使用で約2~3倍と高くなっています。また、免疫を抑制する治療を行う各科のガイドラインにおいても、結核スクリーニングについての記載があります。

結核は、全身のあらゆる部位に影響が及ぶことのある病気であり、免疫を抑える薬剤投与前の結核スクリーニングは、各疾病治療中に結核を発病させないためにも重要とされます。

感染と発病の違い

結核菌の状態
症状
胸部X線検査やCT検査での結果
人に感染させる?

感染(潜在性結核)
結核菌は体内にいますが、免疫で封じ込まれて活動せず、潜伏している状態。
ありません。
異常がみつかりません。
周りの人に結核を感染させることはありません。



発病(活動性結核)肺結核の場合
感染をした後に、結核菌が活動し始めて体の中で増殖している状態。
症状が進むと咳や痰などの症状が出現することがある。
陰影がみられるようになる。
治療をしないまま結核が悪化すると、結核菌が咳やくしゃみと一緒に飛び散り、人に感染させてしまう可能性がある。

Live

Webinar

Series

2023 | 第2回

オックスフォード・イムノテック
ライブウェビナー シリーズ2023 第2回

みなさまの業務にお役立て頂ける情報をライブで配信!

2023.5.25 Thu.

19:00 ~ 20:00  ZOOMにて配信

免疫抑制療法開始前に必要不可欠な 感染症スクリーニング

～ MTX、副腎皮質ステロイド、生物学的製剤などの適正使用のために ～

演者 亀田 秀人 先生 東邦大学医学部 内科学講座 膠原病学分野 教授

お申込みはこちらから

下記URLまたは二次元コードよりお申込み願います。
別途メールにてご視聴用URLをご案内いたします。

<https://usite.jp/05253>

※ご視聴用URLはお申し込み後に送信いたします



免疫抑制療法開始前に必要不可欠な 感染症スクリーニング

～ MTX、副腎皮質ステロイド、生物学的製剤などの適正使用のために～

演者 **亀田 秀人** 先生 東邦大学医学部 内科学講座
膠原病学分野 教授

<講演内容 目次>

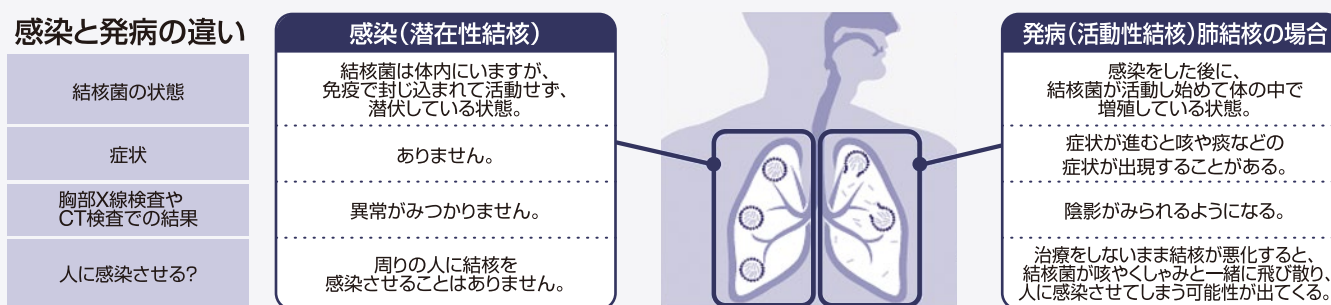
- ・免疫抑制療法下で注意すべき感染症とその予防対策
- ・MTXや副腎皮質ステロイド投与前の感染症スクリーニング
- ・結核対策とLTBI治療の重要性

*2023年3月に発刊された「関節リウマチにおけるメトトレキサート(MTX)使用と診療の手引き2023年版」についてもご紹介させていただきます。

結核菌は体内に存在するが、免疫で封じ込まれて活動せず潜伏している状態(感染はしているが発病はしていない状態)を「潜在性結核感染症(latent tuberculosis infection : LTBI)」と呼びます。結核菌に感染しても、生涯発病する確率は約10%と報告されていますが、免疫が低下する病態・治療により、一般的に結核発病リスクが高くなります¹⁾。結核菌の感染者が活動性結核を発症するリスクは、個々の免疫状態により異なりますが、リスクが高まる要因の一つに、様々な診療科で使用されている免疫を抑える薬剤があげられます。潜在性結核感染症治療指針¹⁾によると、相対危険度はリスク要因のない健康な人と比べて、生物学的製剤を使用した場合は約4倍、副腎皮質ステロイド剤(経口)の使用で約2.8-7.7倍、その他の免疫抑制剤の使用で約2-3倍と高くなっています。また、免疫を抑制する治療を行う各科のガイドラインにおいても、結核スクリーニングについての記載があります。

結核は、全身のあらゆる部位に影響が及ぶことのある病気であり、免疫を抑える薬剤投与前の結核スクリーニングは、各疾病治療中に結核を発病させないためにも重要とされます。

感染と発病の違い



1). Kekkaku Vol.88, No.5:497-512, 2013「潜在性結核感染症治療指針」 2). 医療者のための結核の知識 第4版 医学書院

参考文献²⁾より作成

お申込み

本WEBセミナーは、先生ご自身のパソコン・モバイル機器にて無料でご視聴いただけます。
ご視聴を希望される先生は、下記二次元コード又はURLよりお申込み願います。
別途メールにてご視聴用URLをご案内いたします。

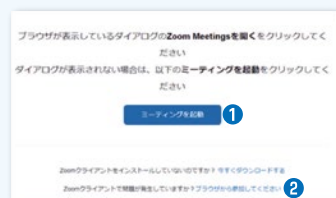
※お申込みいただきました個人情報は、オックスフォード・イムノテック株式会社の個人情報保護方針に基づき安全かつ適切に管理いたします。
※この二次元コードはアクセス解析のためにCookieを使用しています。アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。この機能はCookieを無効にすることで、Cookieを用いた収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。

ウェビナー登録はこちらから
<https://usite.jp/05253>



ZOOMのご利用方法

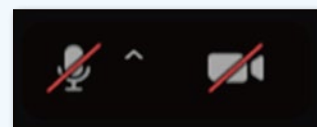
本WEBセミナーではZoomアプリをお持ちでなくても、ご自身のパソコン、モバイル機器でご視聴いただけます。
ブラウザからご参加の場合は、セミナー開始前となりましたら以下作業を行っていただきご視聴のご準備をお願いいたします。



- 1 「ミーティングを起動」をクリック。
- 2 「ブラウザから参加してください」をクリック。



- 1 お申込みいただきました「お名前」を記載してください。
- 2 「私はロボットではありません」の左側にレ点をいれてください。
- 3 「参加」をクリックいただければ、セミナーにご参加いただけます。



本WEBセミナーでは、「マイク」「ビデオ」は使用いたしません。
マイクは「ミュート」に、ビデオは「オフ」にしてご視聴願います。

【お問い合わせ先】
オックスフォード・イムノテック株式会社
横浜市港北区新横浜3-8-8 日総第16ビル 8F
TEL. 0120-718-004 FAX. 045-473-8006
email: contact-jp@oxfordimmunotec.com

T-スポット®、T-SPOT®、T-Cell Xtend®はOxford Immunotec Limitedの登録商標です。



TB-JP-FLY-NA-0010 v1
©Oxford Immunotec 2023. All rights reserved.